HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	企画展　Lepidoptera
Author(s)	持田, 誠
Description	総合博物館へ行こう. 第13回.
Citation	きぼうの虹, 335, 7-7
Issue Date	2011-08-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/46926
Type	article
File Information	mochida kibou335.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

総合博物館へ行こう

第13回

企画展 LEPIDOPTERA

総合博物館
資料部研究員　持田　誠

図1　会場では札幌出身の洋画家、三岸好太郎（1903-34）ゆかりのチョウに関する資料も展示されている。

昆虫標本の代表格

総合博物館で開催中の企画展「LEPIDOPTERA　空を舞う昆虫たち、チョウとガの世界」。「LEPIDOPTERA」とは聞き慣れない言葉だが、これはチョウやガの仲間を含む鱗翅目（チョウ目）の学名。昆虫標本の代表格はやっぱりチョウの仲間であろう。今回は北大が誇るチョウやガのコレクションを集大成した展示である（図2）。

青山コレクションに見るチョウの世界

今回の展示標本の中核を為しているのが、札幌在住の昆虫研究家である青山慎一氏のコレクションである。青山氏は、国内でも有数の鱗翅目コレクションを所蔵することで知られる。このコレクションが総合博物館に寄贈され、現在その整理がすすめられているのである。

図2　標本箱に美しく配されたチョウやガの標本がズラリと並ぶ様子は圧巻

今回の企画展では、青山コレクション二二〇箱一三六〇〇頭のチョウを、分布する地域別に紹介しているのが大きな見所となっている。これは道内最大級のチョウ標本展示と言われている。

図3　松村時代の昆虫学教室を伝えるコーナー

鱗翅目は世界に約50万種が存在すると言われている。木野田君公『札幌の昆虫』（北海道大学出版会）によると、日本ではチョウが約二四〇種、ガが五千種以上知られているとされ、圧倒的にガの仲間が多い。その実態は、青山コレクションからも窺い知ることができる。

8月13日（土）には、青山氏御自身によるセミナーや展示解説も実施される。ぜひ足を運んでいただきたい。

農学教育と昆虫学

札幌農学校は、松村松年（一八七二―一九六〇）によって日本で最初の昆虫学教室が開設された学校である（図3）。以来、多くの研究者による昆虫標本の集積がはかられてきたが、鱗翅目についても多数のコレクションがある。企画展では多くのチョウの新種記載をした松村松年、ホソガの分類研究をした久万田敏夫のコレクションとその研究の背景を紹介するとともに、総合博物館で収蔵されて次のコレクションが公開されている。

松村松年コレクション／久万田敏夫コレクション／高椋悌吉コレクション／茅野春雄コレクション／近藤喜代太郎コレクション／佐々木正剛コレクション／青山慎一コレクション／帯広畜産大学（小野決）コレクション

チョウやガは、鑑賞に堪える美しさを有する反面、農林害虫としての側面も持つ。農学校では、昆虫分類学のような基礎的研究と共に、害虫学と云った応用科学的側面からの研究・教育も進めてきた。展示されている、害虫をひとつの標本箱にまとめたケースは、害虫学教育の有用な教材として用いられたものだろう（図4）。

図4　農学教育、特に害虫学で用いられた農林害虫の参考標本なども展示

タイプ標本も展示

生物を新種発表する際に用いられた標本をタイプ標本と言い、その名前を持つ生物の基準となる、世界でひとつの重要な標本である。松村松年は、大雪山に生息する高山蝶の一種ウスバキチョウを、亜種として世界で初めて発表した。今回、このときのタイプ標本が公開されている（図5）。この他、アサヒヒョウモン、ダイセツタカネヒカゲなど北海道の高山蝶のタイプ標本が今回初公開となる。

図5　ウスバキチョウのタイプ標本

企画展「LEPIDOPTERA　空を舞う昆虫たち、チョウとガの世界」は10月2日（日）まで。入館無料。